

- ・コラム(杉浦 良)
- ・お知らせ(感謝セール)
- ・太陽と緑の会からの助成
- ・ご協力者名簿／編集後記

NPO法人 太陽と緑の会

かわら版

195号/2021 **Since 1984**

「長いスパンから見えること」

杉浦 良

ひと昔ほど前、高校の同窓会に誘われました。徳島から400キロも離れた同窓会に顔を出すほど暇ではない・・・とも思いましたが、電話の誘いと担任の先生も参加されると聞き、足を向けることにしました。

「ところで、今何やってる？」そんな質問に答えることの難しさを想像しながら、取り敢えず活動の機関紙でも渡すことで、乗り切る覚悟をしていました。

会場に着くと、高齢ではあるが昔の趣を残した先生の姿を見つけました。「ここに来るのは最後かもしれんと思って来たわ・・・今、趣味の油絵を書いている・・・大きく進路を変えたようだが、素地は昔からあったぞ・・・」何十年も前の、たった1年程の担任期間で、私が見抜かれていたことの驚きが溢れました。あれこれ昔話に花が咲き、何十年ぶりの再会が始まりました。

「ところでお前、今何やってる？・・・俺は今、ここにいる・・・」そう言って名刺を差し出すT君がいました。

「・・・実は・・・親不孝とも思うけど・・・大きく方向を変えて・・・今こんなことを徳島でやっている・・・これが機関紙・・・バックナンバーもいくつか渡すわ・・・」

そんなやり取りの後「・・・ところでお前のところ・・・定年はあるんか？」



お持ち込みの受付とお品物の仕分け

「・・・定年規定がないから、元気なうちはいつまでも働けることになるなあ・・・」

「そうか・・・お前はいいなあ・・・もうすぐ俺は定年、その後もなんとか残れるけど・・・責任は倍増、給料は半分以下で・・・部下だった人間に、偉そうにこき使われる・・・辞めたいけど・・・子供の教育費などまだ金がかかるからと・・・女房には辞めんといてと言われるし・・・たまの休みにジャズライブを聞きに行くのが気晴らし・・・そう言えば、この前、徳島ではないけど、松山にも聞きに行ったわ・・・」そんな取り留めもない話をする彼でした。

一流会社の部長として、会社人生を精一杯頑張った証の皺が、うつむき加減の表情に深く刻まれています。今まではこれで良かったけれど、これからの方位をどう取るか？ずっと今までの生き方で押し通せるほど、世の中は平板ではないのでしょうか。

養護学校を卒業し、持ち前の体力と、雨の日も風の日も休まず出勤できる生真面目さが評価され、四半世紀も一般の事業所で働き続けることが出来たEさんが職を失いました。今までの仕事自体が無くなり、次の仕事を見つけなければなりません。ただ自閉的傾向が強くなり、歳も取った彼にとって、新たな作業に適應する柔軟性や多様性を獲得できるほど、現実には甘くありません。職業教育・職業訓練で就職の幅が広がられることは事実ですが、全ての人や年齢に適應できるとは到底思えません。それでなくとも作業幅の狭い彼にとって、今まで以外の職種を選ぶことは、自己を否定されることと同じことなのでしょう。朝早く起き、いつものように出勤準備をしてバス停に向かいますが、その先の仕事場がありません。来る日も来る日も、行き場のない旅を続ける彼に不安が押し掛かります。突然奇声を上げて、ますます孤立するEさんがありました。

「・・・もう職場探しはやめたら？・・・そのうち・・・もし前と同じような職場が見つかったら行けばいい・・・一般就労だけが人生じゃないし・・・もう十分働いてきた・・・もしここが良ければ通ってくれば・・・細かい手続きもいらんし・・・来られるときに来たらいい・・・時間もEさんに無理のない範囲で・・・ただ今までと違って給料は安いけど・・・でもお金もそんなに使わないようだし・・・障害者年金もあるし・・・今まで貯金したお金でやっていけるよ・・・それより家から通えて・・・Eさんに声をかけてくれたり一緒に作業したりする人がいて・・・明日も待ってるよ！とってくれる人がいること・・・それって大事だと思うけど・・・」

そんな言葉につられてEさんが通い始めました。自分から言葉を発することなどなかった彼から「Yさん！さよなら！Fさんさよなら！Mさんさよなら！・・・OさんサヨナラKさんサヨナラSさんサヨナラ・・・」と大声が聞こえるようになりました。

「・・・女の人には何度も挨拶するけど・・・男は付け足しやな・・・」そんな古株メンバーの鋭いレスポンスに「・・・前の職場は・・・おっさんばかりやったからなあ・・・あんただってYさんやFさんやMさんがおらんと、OやKやSばかりだったらどうや・・・」「オレは・・・別に・・・かまわんよ・・・」

顔には大きく「ウソついた」と書いてありました。(後半は日々日常の出来事をイメージとして書きました)

お知らせ

2年ぶりの感謝セール

12月10日から4日間、冬の感謝セールを開催致しました。

新型コロナ禍が始まって以来、感謝セールの開催を見合わせてまいりましたが7割以上の方がワクチンの接種を完了し、1か月近く新たな陽性判明された方がゼロ、という徳島県内の状況を踏まえ、店内の換気など感染予防対策を万全に行った上で、2年ぶりにセールを開催しました。

今年はリユース品の売上が平成18年の新館オープン以来最低を記録する厳しい年となりましたが、セール期間中は「待っていたよ」というお客様が大勢お越しになり、久しく目にすることがなかった賑わいに、様々なハンディを持ったメンバーも大忙しでした。

食料品頂きました

竹條さんが、浄土真宗のお寺（尊光寺等）の皆さんからの食料品・調味料など、10回目の持ち込みをして下さいました。

リサイクル作業所、月の宮作業所の昼食用や、1人暮らしをしているメンバーや自分で挑戦できるメンバーにも渡したいと思います。有難う御座いました。

また竹條さんの「手作り蒸しパンケーキ」も沢山頂き、翌日の朝ミーティングで皆に配りました。「茶色と白色のどちらか一つネ！」と言っているのに「ボクはこれの一つしかもらってない！」と一つずつ取ろうとしていることの有難さを思います。

冬期休業のお知らせ

12月29日(水)～1月6日(木)

※12月27日(月)、28日(火)は通常通り活動致します。

※新年は1月7日(金)から活動を始めます。

(訂正:機関誌194号で「新年は1月8日(金)から」と誤って記載していました。申し訳ございませんでした)

定休日の変更

- ①毎週水曜日
- ②第2第4火曜日とその前日の月曜日

11月より定休日を変更しました。

祝日は通常通り活動することに致しました。ぜひご利用下さい(上記及び長期休暇に該当する場合はお休みします)。

太陽と緑の会ホームページ

<http://www.t-midori.org/>

太陽と緑の会 facebook

<https://www.facebook.com/taiyoumidori/>



ホームページ



facebook

※スマートホンのカメラで読み込むとページが開きます

スタッフ雑感

当会の活動に参加させていただき、3年9か月が過ぎようとしています。

コンセプトの「人も物も活かされる街づくり」を目指して、日々頑張っています。自分で何でもしてしまえば早くスムーズに進みますが、それでは普通のリサイクルショップになってしまいます。ハンディーを持ったメンバーさんが活かされる場所にすることが大切だと思い、日々悪戦苦闘しています。

活動当初は、メンバーさんの言動を真正面から受け止めて直球でしか返す事が出来ませんでした。経験を積み、少しずつですが違った角度からも見る事が出来るようになり、カーブや変化球も投げられるようになった気はします。

当会のメンバーさんは、自分の気持ちをストレートに上手く表せない天の邪鬼なメンバーさんが多々おられます。

「今日はこれで帰らせてもらう。」とAさん。「雨が降りそうやしね。お疲れ様でした。」と言うと「やっぱり、居るわ。」

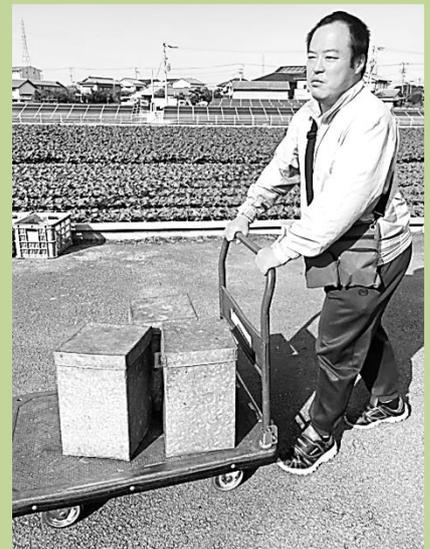
この様な会話が恒例となっています。(そこで引き止めると「帰る」と言い張り、でも帰らないというややこしい事になってしまいます。)その様な会話をしながらも、毎日閉店の18時まで作業をし、最後の窓閉めをしてくださっています。

繊細で芯は真面目なBさん。自信のなさを隠すため、強がったり悪ぶったり。心根は優しいのに、口の悪さで損をしてしまいます。表面の言葉や態度に惑わされず、本心

を読むことが大切だと思い声を掛けています。日毎作業に集中できる時間が伸び、汚れた物を得意の磨き作業で磨き、Bさんのお陰で輝きを取り戻した物を商品として販売しています。

そんなメンバーさん達ですが、朝ミーティングで病魔と闘っている姉の話をするとう優しい視線で真剣に聞いて下さり涙が出ます。ミーティング後にお茶を入れてくれたり、「僕も〇〇だった。」等々励ましてくださるメンバーさん。そんな優しさに触れたいため、ついつい私的な話をしてしまいます。今までの厳しい環境で辛い思い、悲しい思いを経験してきたから、深い暖かさが生まれるのだと思います。メンバーさんに助けられることも多々あり、感謝しています。

これからもメンバーさんの個性、持っている力を発揮し、イキイキと明るく元気に仕事ができるように肯定的に支え、商品が売れる事を共に喜び活動していけたらと思います。(専任職員 山下久美子)



太陽と緑の会からの助成 (第55回)

第55回太陽と緑の会福祉事業団からの助成
徳島市資源ごみ回収事業に係る奨励金（古紙、鉄屑、空き缶1キロに対し3円、廃食油1キロに対して20円）令和2年度前期分(令和2年度後期配分)10万500円が当会の太陽と緑の会福祉事業団に支給されました。

これを各分野で非営利活動に取り組んでおられる以下の団体の皆様に配分させて頂くことに致しました。(敬称略)

①障害者福祉活動への助成

NPO法人 聴覚・ろう重複障害者生活支援センター（地域活動支援センターの運営など）
3000円

②社会福祉活動への助成

大阪釜ヶ崎喜望の家（野宿を余儀なくされた高齢日雇労働者の支援活動）5000円
徳島市社会福祉協議会 5000円

③国際協力活動への助成

パシワール会（アフガニスタン等での医療事業、水源確保事業、農業計画）1万円
モヨチルドレンセンターを支える会（ケニアにおけるストリート・チルドレンの支援活動）4万1544円

⑤その他の活動への助成

「ハートフルゆめ基金とくしま」を育成する基金 3万円
NPO法人 徳島県ボランティア協議会（ボランティア活動の普及を推進する活動）5000円
支援金振込手数料 956円

太陽と緑の会福祉事業団の助成活動は平成5年度よりスタートしました。各分野で非営利活動に取り組んでおられる個人・団体の皆様を対象に年2回、28年間で累計1589万2576円の助成を行ってきました。



段ボールの積込



お品物の仕分け



機関誌の補充

当会の活動をご支援下さった皆様

§ 2021年11月1日～2021年12月19日 § (紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付を下さった皆様

中村、佐藤、米田、青木、米田、生田(郵便振替口座)野田、匿名、内原、松尾、鈴江

品物を持って来て下さった皆様(郵送含む)

○徳島市○佐野、武市、佐藤、池田、鈴江、杉本、榎本、中山、中平、原田、中川、岡本、徳永、高岡、古川、上山、森本、野澤、武岡、田尾、久永、柏木、木田、富永、漆原、タムラ、藤川、オオグロ、阿部、林、柳澤、東條、岡、大塚、日下、管生、藤吉、山田、福山、駒形、石本、高橋、森、中園、河西、立石、下山、吉田、美濃、吉田、笹田、上久保、荒木、高橋、山内、前田、宮脇、ヤマダ、鴻野、サトミ、タムラ、中矢、山本、中田、中野、松井、服部、市原、熊谷、和泉、久次米、川田、鎌田、喜多、森、吉岡、篠原、山本、川野、原、辻、鈴木、榎原、前川、田中、南、遠藤、長船、平石、東條、桑原、平賀、朝日、尾方、細川、福永、西山、前田、川島、松本、柏木、地域活動支援センター やまもも、加納、新水、福井、池本、加藤、宇原、近藤、山口、喜多、萩原、斎藤、中川、若江、張、川崎、井坂、中平、隅田、岸、太田、清水、南、小松、中村、河野、上久保、露口、柿本、下内、川上、岡本、忠津、高木、松村、森川、松下、岡村、内田、岡島、馬越、榎本、田和、久永、兼子、木下、畑中、ミセ、山岡、植木、橋川、藤田、三木、楠本、斎藤、安藤、カワカミ、片岡、井内、西田、高松、上田、笹山、橘、井内、高木、原田、山内、西尾、月岡、中川、石井、藤本、大塚、原田、岡、美馬、佐々木、田村、沖津、工藤○小松島市○廣田、前須、飛田、徳政、梅岡、湯浅、三瀬○藍住町○蔭山、山橋、森、川村、熊本、岩脇、内田、山本、川脇、中野、野田、濱、白勢、岩谷、奥谷○石井町○福田、川野、杉浦、浅井、武田、後藤、赤沢、中村、塩田、池北、民、長澤、白木、赤澤、島、加藤○鳴門市○廣田、出口、山本、元原、東條、阿部、近藤、遠藤、大森○上板町○梶原、広瀬、水野○板野町○藤井、鈴木、中野、阿部、山本○吉野川市○上原、原田、山本、中尾、明石、武田、内藤、形山、北谷、板東○美馬市○高木、長江、松浦、住友、大塚○阿南市○井内、遠藤、上原、原、上田、石川、石本○北島町○脇○松茂町○朝井、中川、どんどこどん○阿波市○原田、和田、川崎○神山町○塩田、河野、森本○つるぎ町○河野○静岡県○杉本○京都府○木村、井上、伊地知○東京都○三木○香川県○松村○静岡県○中村○大阪府○吉岡

品物を引き取りにお伺いさせて頂いた皆様

○徳島市○上田、林、八村、杉本、安芸、大野、加藤、大櫛、青山、吉田、木下、豊田、河原、蜂須賀、村崎、吉川、中村、坂本、小倉、西岡、矢野、小川、麻植、柳川、山口、西本、今津、生田、横山、後藤田、正木、羽山、稲垣、穴吹ハウジング(北川)、櫛淵、川原、中川、藤谷、西ばり 宮北、吉見、若草幼稚園、宇田、佐藤、林、井川、高橋、三宅、ナカタ、名賀石、手水、小野、宇治製菓、伊丹、平岡、美馬、坂東、趙、青木、ハッタ、西林、松田、村島、増田、出口、磯塚、高岡、松浦、渡部、中西、平賀、村崎、楠根、和泉、久龍○藍住町○林、エレガンテ、今村、南○石井町○海原、中野、桑原○北島町○坂東、豊田○小松島市○奥山、木下○吉野川市○近藤○鳴門市○米田、大和、廣瀬、中村、久龍、井口、富永、川口、神長、岩永、赤川、元木、南

いつも当会の活動にご支援ご協力頂き、ありがとうございます。品物を持って来て下さった皆様の中には、「何回も来て、書いているので」「名前は結構ですから」と、お名前を書かずに帰られた方も多数おられます。頂いた品物は大切に活用させていただきます。リユース・リサイクル可能なものがございましたら、ぜひお電話下さい。

また、お野菜、果物、食材、お菓子、飲み物等を差し入れて下さった皆様も本当に有難うございました。

※本誌へのお名前の掲載を希望されない場合は「匿名希望」と記入して頂ければ幸いです。

編集後記～1か月の食費が7万円

2か月で約15万円の公的年金を受給し続けるために、夫が亡くなった後も井戸に遺体を隠し死亡の事実を隠ぺいしていた、という事件が報道されていました。

70代の奥さんと40代の息子さんとの3人暮らしだったというこのご家族が、夫の年金がなくなると生活が立ち行かなくなるほど経済的に厳しい状況にあったのか、詳しい事情は分かりません。

太陽と緑の会の作業所に通って来る様々なハンディを持ったメンバーさんの中にも、障害基礎年金や生活保護で生活を営んでいる方がいます。生活保護の場合は毎月1回(自治体によって支給日は異なる)、障害基礎年金の場合は偶数月の15日に2か月分が支給されます。支給日が近づくとつれ、通帳の残高もゼロに近づいてきて、「自分はこの先やって行けるのか」と精神的なバランスを崩してしまうメンバーさんもいます。

障害基礎年金の場合、1級なら2か月で約16万円、2級なら2か月で約13万円。

その金額で

1人暮らしの生活がやっていけないのか、と思われる方もおられるかもしれません。



あるメンバーさんは食費だけで1か月7万円以上かかっていました。

1人で7万円の食費と聞くと贅沢な食生活を送っているように思えますが、詳しく聞いてみると、外食はしておらず、白ご飯やパンなどの主食とお惣菜、あるいはお弁当、それにお茶やジュースなどの飲み物、ちょっとしたお菓子程度のものしか買っていません。それでも1食800円、3食で2400円、1か月で7万2000円です。

日常的にスーパーで買い物をされている方であればイメージしやすいかと思いますが、値上がりガジガジと進む中で、「なるべく安い店で、安いものを、安い時に必要な分だけ買う」といったように、ある程度考えて工夫して買い物をしないと、そのくらいの金額にはなってしまいます。

もちろん、自炊ができるのであれば、このようなことにはなりません。お米を買ってきてご飯を炊く、麦茶パックを買って自分でお茶を作る、味噌と豆腐と野菜を買って味噌汁を作る。それだけのことで食費はかなり減らすことができます。

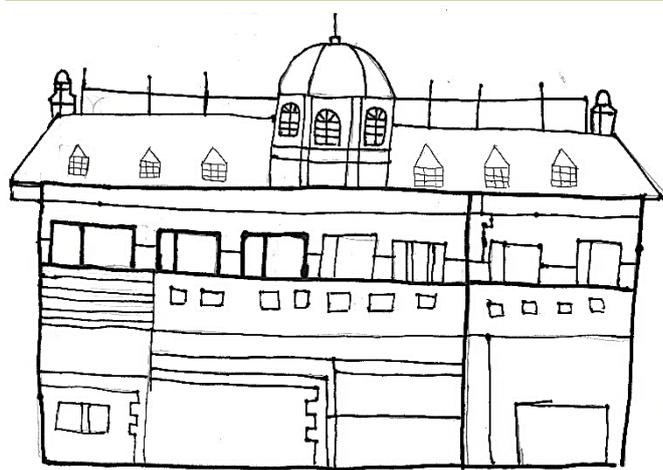


イラスト 左:岡田さん 右:久米君

ただ「それだけのこと」が容易ではありません。子供の頃から「危ないから」と、自宅でガステーブルや炊飯器、包丁などの調理器具を扱う機会が少なかった（あるいは、全くなかった）メンバーさん（特に男性）もいます。多少料理はできたとしても、調子が悪くなると作れなくなってしまう当事者の方もいます。

そもそも自炊が困難な家庭で育つなど、調理の実践を間近で目にする体験がほとんどなかった方もおられます。

先日お客様から精米済みのお米を頂いたので、一人暮らしのメンバーのAさん、Bさん、ハンディのある妹さんと2人暮らしのCさんに3キロずつプレゼントしました。Aさんは電子レンジ用の炊飯容器（リユース品）を太陽と緑の会で買い、自宅でご飯を炊くようになりました。年末年始の休みを迎えるにあたって、2回目のお米のプレゼントをしました。

作業所で週1回昼食のカレー作りの準備をしているCさんは、自宅でも休日にカレーを作ったりするようになりました。

ここに至るまでに5年、10年という長い年月の流れがありました。3か月や半年程度の関わりで結果が出ることはなく、将来結果が出る保証もなく、結果が出ても評価されることは少ない。割に合わないのが「本来的な福祉」なのでしょう。

新型コロナウイルス第3波で始まった令和3年。4月からの第4波、東京五輪の開催と重なった第5波、ワクチン接種、そしてオミクロン株による第6波への警戒の中で1年が終わろうとしています。

リユース品の売上が平成18年の新館オープン以来最低を記録する厳しい年となりました（持続化給付金は頂きませんでした）。

陽性判明者の増加・医療のひっ迫・後遺症など市民に対して警鐘を鳴らす報道、政府や専門家による「自粛」という分かりにくいルールの呼びかけ、差別・誹謗中傷やDV・虐待・自殺の増加など、いろいろなことが複雑にからみあう中で、未知のウィルスに対して市民の皆様一人一人がどのように受け止め行動されるのか、いつもアンテナを張りながら、難しいかじ取りを迫られていました。

新型コロナ対策として多額の税金が投じられる中で、今はまだ公的資金で守られている「制度福祉」が今後どうなっていくのか。Eコマースやキャッシュレス決済が社会の日常に浸透していく中で、公的資金に軸足を置かない「人も物も活かされる街づくり」をどう展開していくのか。新年も難問山積です。

なお本誌を持ちまして、新年のご挨拶とさせていただきます。旧年中は新型コロナ禍の中、変わらぬご支援を頂き、本当に有難うございました。新年もよろしくお願ひ致します。（文責・小山）

NPO法人 太陽と緑の会

私たちは、「人も物も活かされる街づくり」をテーマに、ハンディのあるなしに関わらず「地域の中でその人がその人の足で立っていけること」を目指し、様々な方々（市民、ボランティア、行政）の支えを頂きながら土、日を含めた日常活動を行っています。

これは、日本の次世代型ソーシャルアクションモデルになると考えています。このような活動のあり方により、徳島の将来や日本の未来が、幸多く豊かであることを願っております。

発行：NPO法人 太陽と緑の会

〒779-3120 徳島市国府町南岩延 107-1

TEL・FAX 088-642-1054

代表理事 杉浦 良 編集 小山 隆太郎

ご協力者名簿作成担当メンバー 岡田

宛名シール添付担当メンバー 堀

製本・発送作業担当メンバー 岡田 宇津

年会費：正会員 1万円（総会議決権）

準会員 1,000円（機関誌発送のみ）

郵便振替口座

01620-8-44703

加入者名：特定非営利活動法人太陽と緑の会